

## 第 1 回浜田市人権尊重推進委員会 会議録

会議名	第 1 回浜田市人権尊重推進委員会
開催日時	令和 6 年 1 月 31 日（水）午後 2 時 30 分～午後 4 時 25 分
開催場所	浜田市役所本庁舎 4 階講堂
会議の担当	地域政策部 人権同和教育啓発センター
議 題	<p>1 委員長・副委員長選出（委員長・副委員長は次のとおり）  （委員長）寺田委員  （副委員長）田村委員</p> <p>2 浜田市人権尊重推進委員会について  (1) 浜田市人権を尊重するまちづくり条例について……………資料 1  (2) 浜田市人権尊重推進委員会について……………資料 2  (3) 浜田市人権教育・啓発推進基本計画について……………資料 3  (4) 浜田市人権教育・啓発推進基本計画の評価・検証について…資料 4  (5) 今後のスケジュールについて……………資料 5  (6) 意見交換</p>
公開・非公開	公開（録画配信） 視聴用アドレス <a href="https://youtu.be/DyXFtyFb09c">https://youtu.be/DyXFtyFb09c</a>

## 【出席者】

## ■委員

原委員、北山委員、大地本委員、佐々木委員、細川委員、寺田委員、村井委員、  
坂東委員、田村委員、田畑委員、上部委員

## ■事務局

田中地域政策部長、草刈教育部長、濱見所長、近重係長、中川指導主事、滝本指導主事

(2 浜田市人権尊重推進委員会について)

**○委員** 人権教育・啓発推進基本計画は平成 18 年から、23 年、27 年、令和 4 年に策定された。今回示されたスケジュールに第 5 次計画を令和 8 年度に策定とある。この計画は、何年ごとに策定すると決まっているわけではなく、概ね 4～5 年で必要があれば策定し、次回は令和 8 年度の予定か。

**○事務局** 第 4 次の計画期間は、令和 4 年度から 7 年度にした。これは、浜田市の最上位計画の浜田市総合振興計画の期間に合わせている。浜田市総合振興計画にある人権の項目とリンクさせて期間を設定した。大体 4 年、5 年で浜田市総合振興計画と同じ期間を設けている。

**○委員** わかった。

**○委員** 資料 4 に、今回設置された浜田市人権尊重推進委員会では、基本計画の評価・検証が挙げられている。資料 5 の今後のスケジュールの令和 6 年度欄にも基本計画の評価・検証が挙げられている。令和 5 年度は、評価・検証がないので、されないと思う。記載案を見ると私の活動の宣伝ではないが、浜田市教育研究会としてこの 1 年ずっと取り組んだこととして、学校等における取組が挙げられている。来年度は、この学校等の取組をこの委員会の場で説明し、委員の皆さんからもっとこうした方がいいのではないか。とか、良いことしているなという話し合うイメージで令和 6 年度を迎えて良いか。

**○事務局** 学校での取組は、委員をはじめ皆さんのご協力で、学校で力を入れた活動がされていると思う。来年度この委員会で、学校の取組を紹介したいのであれば、ぜひ紹介したいと思う。ただ、学校のみではなく、まちづくりセンターや、企業向けの取組も弱いながら取り組んでおり、団体ごとの取組を全部紹介する時間が確保できるかわからない。例えば、資料の用意はできると思うので事前に読み込みんで、この報告書を作成すると考えている。資料 5 の補足であるが、今後のスケジュールに令和 5 年度に浜田市人権教育・啓発基本計画の評価・検証を実施するし、7 年度、8 年度も行うが資料への記載が漏れている。毎年度評価・検証は行う。令和 6 年度に令和 5 年度分の実施報告と評価をし、令和 7 年度は、令和 6 年度の実績報告、評価を行う。というスケジュールである。

**○委員** 来年度、今年度の学校関係での取組を聞いていただく場ができるということか。

**○事務局** 確約はしかねる。取組を皆さんが知る機会ができきることは、良いと思う。この委員会は、毎年度2回程度の開催を想定している。令和7年度の計画改定の際には開催回数を増やす予定である。実績報告会の開催できればよいが、その時間を設けるのかは検討する。学校だけ披露すると、まちづくりセンターや人権擁護委員協議会等の取組もある。その辺りは調整したいと思う。

**○委員** 学校での取組を知る機会ができることは、とても良いと思う。学校で実施していることは人権同和教育室と連携していることがほとんど。学校単独ではなく、一緒に取り組むことが多い。年1回開催する実践発表会に参加いただき、貴重なご意見がいただける。もしこういうことが進むのであれば出欠は別として各種事業を委員へ案内しても良いと思った。ふれあいフォーラムにもぜひご参加いただき評価・検証する。そういう方向かを聞きたかった。

**○事務局** 例示された実践発表会とは、例年1月に行っている。内容は、各学校の人権教育の担当教諭が参加し、市内4校が取組を発表する。また、各学校の取組は実践資料集を作成し共有している。実践発表会には、西部人権啓発推進センター、浜田教育事務所から出席された。この実践発表会へこの委員会の委員の皆さんをご招待できたらということである。

**○委員** そういう形で広がるのが、評価・検証になるかと。

**○事務局** 確かに、取組を把握し、良いか悪いのかを評価することが適正で、報告書へ掲載できるというご意見だと思う。それは検討する。令和6年度の実践発表会に浜田市人権尊重推進委員会の委員の皆さんに案内することを検討する。

**○委員長** 事務局で検討を願う。(6)の意見交換に入る。ここにお集まりの皆さまは、いろんな分野で活動されている。それぞれの現場の声、浜田市の人権課題に関する取組に関することなど、いろいろ意見をお持ちであると思う。本日は1回目の会議であるので先ほどの事務局からの説明や質疑を踏まえて、確認や委員間で共有や報告書の記載事項へのご意見を伺う。

**○委員** 報告書4ページ、①のN02の新規採用職員等の成果欄の記載に括弧で「(モノサシ)」と書いてある。これはどういう意味か。行政用語か。

**○事務局** 「モノサシ」は目立たせる意図であった。削除する。

○委員 6項目は、何か元に作ったと説明がされた。成果に対するねらいや目的は。①が目的か。何か目的があって、取り組んだ成果と思う。何を目的にしてこういうことをしたというところが抜けているのか。それかこの効果としてこの発達段階に応じた人権教育というのをねらいと受け取って大丈夫か。

○事務局 浜田市人権教育・啓発推進基本計画の評価・検証が委員の皆さんの役目である。その評価・検証の方法案を提案した。ご指摘のとおり、目的があって成果である。基本計画の本体をもとに目的を確認する。補足するが、計画の6、7ページの施策体系図は、資料3の3ページにある表と同じ。これの体系に①②③の評価を報告書に掲載している。8ページの各論、あらゆる場における云々が、資料3の3ページの上段である。上段の4つの話である。そこに、「(1)学校等における取組」の「①人権尊重の精神を基底に据えた教育活動」で、ここの文章の「人権尊重の精神をすべての教育の基底に置き、一人一人の人格や個性の違いを互いに認め、自尊感情を高め合う教育を推進します。」これはやることであり目的である。この目的に対して、報告書には手段が3つ書いてある。「N01 浜田市人権・同和教育協議会」「N02 浜田市人権・同和教育主任及び推進者会議」「N03 人権作品コンクール」これが手段で、成果を記載している。目的に戻ると「自尊感情を高め合う教育を推進します」と記載している。ほとんどの項目がこのような書き方で「推進します」「啓発します」「教育します」とあり、要は方向性が書いてある。これまでの他部署の計画をご覧になられたことや計画策定に携わられたかもしれない。通常、計画は期間を定める。人権の計画だと4年間で各年に数値を設定する。2年目、最終年度の4年目に、50%から60%に増やすことを目標にしたとする。1年目、2年目、3年目、4年目に何をして結果は55%でB判定、または65%でA判定というのが、わかりやすく評価しやすい。しかし、県内市町村も含め、全国もそうであるが、人権の計画はこのように記載がないものがほとんど。同和問題に関心がある人を50%から80%に上げる場合、50%をどう把握するのか。例えば、研修に年間で1,000人参加と数値設定ができないことはないが、それはあくまで手段で、800人や1,200人であっても最終的に、意識の向上が大事である。向上させるための基本数値がどこにもない。したがって非常に難しい。他自治体を参考にして作成したのがこの記載例である。ここまで評価を出す市町村は、わずかである。浜田市もこれまでやってない。方向性を示し、どれぐらいやったのか。実績は出ているが、それが本当に、家庭・教育・地域に効果があったのかをやっていなかった。それをやる場がこの委員会である。今日の事務局提案の本当に一番の肝である。極端にすると、私たちとしてはこの方法しかできないがよいか。という話である。計画がまずいとなれば、次回策定時に構成を変える。いや、そんなに待てないので、来年度から変更も1つの方法である。記載案に嘘は書いていないが、不足があると認識している。他の部署の取組を確認していないので。この方法でよろしければ来年度、この書式で報告書を作成し、評価検証する提案と思っていただきたい。一番の目的が曖昧で、数字が出ていないから私達も

苦慮しており、皆さんが評価するときに、できたのか、できなかったのかを委員の皆さんが評価することが難しいと思う。ただ、評価・検証は必要なので、この方法でよろしいかというご提案である。先ほどのご質問への回答になるかわからないが、今回の会のメインは、この評価・検証のご意見を聞きたい。

**○委員長** なかなか難しい問題で1つの指針として、事務局からこの報告書が提案されました。これに対し、目標があった方が良いのではと意見がされた。本当に評価・検証を含めて、皆さんのご意見をお聞きする。

**○委員** 県でも同じように進捗管理を行っているが、事務局が説明したように、目に見えて人権施策の効果を測定する良い手段がない。県でも、例えば研修受講者が何名、何回会議や研修を行ったかという手段かもしれないが、そういったことを記載している。数字で成果を表せるものは、できれば積極的に記載すると良いかと思う。さっき申し上げた研修参加者数・相談者数の多いか少ないかは、見ただけではわかりにくいので、目標値があれば記載し、前年度と増減比較を記載すると私たちも評価しやすいと思う。

**○事務局** 委員がおっしゃる方法が、皆さんが評価をする判断基準になると思う。回数、人数が増えたのか減ったのか。チラシの配布先が何か所から十数か所に増えた。そういう実績を積み上げて前年と比較しうまくいっている、後ろ向きになっているという評価をいただく場になるかと思う。ここは、詳細に記載する。

**○委員長** 数値化できるものは、数値化する。あるいは前年と比較できるものは比較するということでよいか。他の方法があれば。

**○委員** 参考までに、国の方式を情報提供する。法務局は「啓発」と「救済・解決」に当たる活動の2つがある。啓発の結果は、説明されたように、こういうことをやりましたという羅列である。効果は、県から言われたように啓発は評価しづらい。結局こういうことをやりました。成果はあったと思うがどんな成果でしたかというのを客観的に書く方法がない。啓発の場合は、実施したことを羅列するしかない。行政的な言い方になるが、確認する客観的手法がなかなかない。事務局提案の特に啓発活動は、こういうことを活動として行った。という形。評価の基準の例えとして、これまでちょっとしか講演会を行わなかったが、開催を少し増やしたとか。法務局の活動も、こういうことを行って、何名参加という形で記載し、昨年度より多いか少ないかということの評価としては。私も行政なので、事業の継続性を一番大事にしており、続けることを評価する形としていところがある。参考までにお伝えする。

**○委員長** 委員がおっしゃるように様々な記録を行い、事業を継続していることが、評価の1つと私も思う。私は人権擁護委員としていろんな事業所への啓発をしているが、それで結果が出るのではなく、こういう事業所に向かっての啓発をずっと続けていますよっていう話をしながら回り、今どんなことしておられますかと事業者へ意見を聞き、実態を掴んでいるが、これを数値で表すとなるとなかなか難しい。本当に人権問題の数値化が難しいことは実感している。意見が出ている(4)の表は、今後の活動に対し、令和5年度から6年度は回数が増えた、という数値化ができるところは数値化し、実施するとどうかということで、今回の評価検証の方針はよいか。

**○委員** この成果を書くのは事務局で、事務局が書いたものを委員が見て評価・検証を行うのか。

**○事務局** 評価・検証は、委員の皆さんが行う。事務局は案を作成するが、評価は自己評価ではなく、浜田市人権尊重推進委員会の委員の皆さんの評価である。成果をイチから委員の皆さんが考えるのは、現実的ではない。事務局案を作成し、委員の皆さんがご覧になり「後ろ向きである」「伸びていない」と判断し、修正をして公表する。という流れを想定している。

**○委員** 昨年度の人権を尊重するまちづくり条例の検討時に、条例を作っただけじゃだめ。私は学校代表として検討に加わっている。学校関係者でこの条例を知っているのは、私だけ。だからこの条例を、私から校長へ、校長から所属校へ伝える動きをとりたと思うと申し上げた。申し上げた以上、行動を起こさなければならない。そこで、記載案の表の最初に記載されている人権・同和教育協議会の12月6日の会には指導主事に講師を依頼し、市内の県立学校も含めた学校の先生方に、「浜田市人権を尊重するまちづくり条例」が制定され、条例の精神を学校現場で生かすため、早速実行に移したことが報告書に記載されていない。学校として具体的に学校現場にみんなで作った条例をまず知ってもらおう。各学校の人権宣言、中学校を中心に行っている人権集会に反映してもらいたい。説明を聞くだけではなく、グループ協議をして、これをどう学校で生かせるのかと、今回やっていて、それを言わせていただくと。そうすると実行している。すごい。やったねということを書いて欲しい。

**○委員長** 各団体の取組がある。人権擁護委員協議会も指導主事を招いた研修をお行っている。実際に取り組んでいる団体がたくさんあると思う。それを発表し合う場を設けてもよいかもしれない。

**○委員** 評価・検証は、深く知らないとできないことをわかっていただきたい。こういうものを見ただけでは、評価も検証もできない思うぐらいの責任を感じる。

**○委員** 先ほどの委員の熱いお話や評価の重みを聞き、やはり自己評価と他者評価の2つの視点が大事と思った。自己評価は、担当者としての思い。担当者は、子ども達の実態を把握していると思う。それをわかった上で、現場でいろんな施策を打って取り組んでおり、そこがわかった上での評価。一方で、詳細を知らない私たちがいたとして、でも私たちは決してそれぞれの専門的な視点で見た場合、十分頑張っているという思いになるかもしれないし、いや、浜田市の実情あるが、もっと頑張ったほうが良い、あるいはこういうやり方がよいというのが出てくるかもしれない。担当者目線の自己評価と、私たちは他者評価の視点でお話ができる。そういう場であるといいのかな。と思った。

**○委員長** 大変貴重でよい意見をいただいた。

**○事務局** 報告書の記載案にある成果の話が出た。成果欄までは、事実である。こう思うのではなく成果はあくまで、これまでの参考となった、こういうことにつながった。この成果欄までの記載内容は事実になる。こちらは、内部評価、担当で実績とともに、成果が上がっているものを挙げる。それを委員の皆さんが見て、それぞれの専門分野から「この方向は違う」あるいは、先ほどのように「自分の知っている限りではこういった実績もある」というご意見をいただき、それを皆さんが評価・検証とする進め方が正しいと思う。先ほど、所長から他の計画をご存じの方がおられると話しました。例えば、浜田市総合振興計画で指摘される問題は、大きな目標に、人口減少を防ぐ、出生数を維持するとあり、その下にたくさんの取組があり、評価がほとんどAかB評価であるが人口は減っている。結局、取り組んでも本当に目標につながっているのかがわからない。浜田市人権教育・啓発推進基本計画には、特に目標として掲げるところに数字で表せるものがない。そうすると、やはり取組の継続、あるいはそこからの進化に対してご意見をいただく方法でまず始めることが、現状では最適とお考えいただきたい。

**○委員長** 事務局から補足があるか。

**○事務局** 部長が申したとおりである。成果欄までは、委員から報告書への記載する内容が漏れているとご指摘があったが、取り組んだことを報告書へ記載し、皆さんがそれをどう思われたかという、他者評価の項目があると良いと思った。その文章を考える時間の確保の話になると、皆さんに事前に作成を依頼するといったことになるかもしれない。やり方を考えるが、他者評価である委員の皆さんの評価が入る評価表にできたらと思う。

**○委員長** 本当に貴重な意見が多く出た。浜田市人権尊重推進委員会は、評価・検証がすごく大事であるので、事務局で案を練り、次回に形が出せるかということでのよろしいか。皆さんも持ち帰って、どういう形がよいかということを考えていただきたい。それぞれの所属する団体での検証をされていると思う。それも参考にし、自己評価、あるいは、他の部署からの意見を聞きながら、自己評価や他者評価ができる形が素晴らしいのではないかと。先ほど委員がおっしゃったように、取組を地道に継続することがすごく大事だということを改めて感じた。

**○委員** この報告書は公開されるのか。

**○事務局** 浜田市のホームページ上で各年度の報告書は公開する。

**○委員** 浜田市の出前講座で人権関係を検索した。介護・予防・防災の出前講座は表示されたが、人権同和教育啓発センターの講座は表示されないので市のホームページに載せていないか。もしあれば教えてほしい。

**○事務局** ホームページに当センターの講師派遣を載せている。ただ、出前講座という名称ではなく、巡回講座として配信している。表示されず申しわけない。

**○委員** イベントでこのような出前講座、特に防災はみんなすごく喜ばれる。利用促進のためぜひ表示される設定をするとよいと思う。いろんところで話題となり、勉強会にもつながるので、いいかなと思うのでよろしく願います。

**○委員** 私たちの所属団体では、月1回理事会がある。なるべくここで学んだことを発表している。それと、地区民児協では、必ず年に1回人権擁護委員をお招きし、人権教育をはじめとして講義を受けている。いつも思うが、地道な活動を続けることが一番大事だなと。一人一人が、学ばないといけないことはよくわかるが、裾野を広げることが、今一番悩ましい。続けことが一番大事であることを常に感じ、私たち民生委員は、常に人権がこの辺で渦巻き、仕事が進めにくいことも多々あるが、これから十分に学び、皆さんのお力を得ながら頑張るのでよろしく願います。

**○委員長** 私も裾野を広げる難しさや大事であることを感じる。いろいろ開催しても参加する方は参加するが、全く参加しない方は参加しない。どうしたらいいか日頃から考えている。でも、やはり継続が大事と思うので、皆さんのご協力をよろしく願います。評価・検証以外で何かご意見、ご質問あるか。



○委員 条例の責務に、市・市民・事業者があり、3つ目の事業者を掲げるところは全国的に少ないと思う。事業者を規定した経緯を知りたい。最近国連や、国からビジネスと人権、SDGs等が採択され、島根県へ降りている。県としても、どう世界の流れを県の施策に生かすとよいか悩んでおり、参考に市のお話を教えていただきたい。

○事務局 条例の第8条に事業者の責務を規定している。これは初回の検討委員会で勉強会をした。ここ最近で制定された人権条例の例を約10件、中国5県で制定された条例5件程度を抽出し横並び表を作成した。浜田市では、必要な条項を皆さんに提案し載せている。あえて事業者を規定したのは、浜田市がここ数年で制定した条例にも規定がある。例として「浜田市協働のまちづくり推進条例」に事業者の責務が規定されている。また、事業者でもパワハラ、外国人雇用、男女格差をはじめいろんなことがあり、事業者にも取り組めたらということ。最後に、これは皆さんへずっと申し上げているが、浜田市は教育分野へのリーチは力が入っているが、企業向けの力が入っていないと認識している。このままでよくない。進めなくてはいけないということでこれを規定するということで、事業者という条項を設けた。浜田市が必要と思って入れて、検討委員会の委員の皆さんに検討していただいた経過がある。

○委員 事業者向けの施策も今後進めるということか。

○事務局 進める必要があると思う。今すぐに何ができたということが言えない。浜田商工会議所とも相談しているが、実行できていないのが現状である。

○委員 そのあたり県も一緒に考えたい。

○副委員長 補足すると、事業者向けの動きが取れていないのは事実である。先ほど、課題が多くある話がされ、時間をかけて少しずつ改善しなくてはならないので、学習や学びの場を事業所が主体となって設けていかななくては。そういったことに積極的に取り組み誰もが、安心して住める浜田にしないといけないと考えている。

○委員長 人権擁護委員の会議でも事業者に、人権感覚を取り入れる動きが広がっていることが紹介された。島根県も去年から事業者の研修、アンケートがどんどん行われている。私も人権擁護委員として事業者対して配付するパンフレットの内容を今の時代に必要なことを盛り込み、浜田商工会議所とどう広げると相談している。みんなが働きやすい職場にする動きが広がっている。本日の内容確認し共有する。

**○事務局** ①市が取り組む事項は報告書の表現にある「モノサシ」は削除する。②報告書への記載事項の参考として島根県から、進捗を正確に明確に測定する最適な手段がないが、数値で表せるものは表示し前年度との比較ができるようにすると良いのでは。③国からは、啓発はなかなか評価しづらいというご意見をいただいた。理由は、客観的な指標がなく、その項目に関して、実施状況である回数、参加人数など表せるものを表示し、さらに事業の継続が大事であるとのことをご意見をいただいた。④評価・検証の主語が確認され、浜田市人権尊重推進委員会の委員が評価・検証することを確認した。⑤評価・検証は実施内容の詳細を知らないとできないのでは、とのことをご意見をいただいた。⑥自己評価、他者評価の視点が非常に大事であること。この委員会の視点は、他者評価である。したがってその辺を認識した評価が必要ではないかという意見を受け、事務局から、今回提示した報告書の表は成果までは、事実の記載をします。ここに対して、本委員会の委員の皆様へ評価をいただく。という流れを提案した。⑦報告書は、浜田市のホームページで公開をする。以上、いただいた意見を踏まえ、報告書の体裁を事務局が改めて検討し、次回委員会で提示するが、委員へご意見をうかがうことがあることを確認した。

**○委員長** レジュメの「7 その他」について。

**○事務局** (事務連絡)

**○委員長** 次回の委員会については。

**○事務局** 次回は来年度の上半期での開催を予定しております。主な内容が、令和5年度事業の評価・検証である。本委員会の委員の主な役目は、評価・検証である。事業の資料を用意し評価ができるように会議を1回開催したい。場合により、2回目を開催するかもしれない。5月には総会があるので6月から9月に開催予定とする。詳細な日程は未定である。また、いろんな講演会等を皆さんにご案内するので参加にご協力をお願いします。

**○委員長** 予定議題は完了したので本日の委員会を終了する。本当に皆さん貴重な意見をたくさん出していただき、実のある委員会になった。次回もよろしくをお願いします。

以上